

平成 24. 7. 23

中部に看護大設置構想

医療の高度化や看護師不足に対応するため、鳥取県中部に看護大学を設置する構想が、看護師らが所属する政治団体「県看護連盟」(子道寿美子会長)や一部県議の間で浮上している。空き校舎となる河北中学校(倉吉市上井)を活用し、地元の学校法人に運営を委ねる「公設民営」方式を想定。教員や学生の確保など実現のハードルは高く県は慎重だが、県議会でも後押しする動きがあり、8月にも有志議員らが議員連盟を発足させる。

(本社・北尾雄一、中部本社・小谷和之)

話題を追う

■20年来の悲願
看護大学の県内設置は20年ほど前から構想が出ては消えてきた。2001年に開学したら、鳥取環境大学に看護学部を設ける構想もあったが実現に至らなかった。今回の案は、空き校舎となる河北中に県制の鳥取大学医学部保健看護大を整備し、鳥取短期大学(同市福庭)子市西町)のほか、3

を運営する藤田学院に経営を委ねる。定員は1学年100人として

子道会長は看護師不足に加え、医療の高度化に対応できる人材が育成できていない現状を問題視。高齢化の進展で在宅医療を支える専門知識を持った看護師も必要となることから、「自立した看護師を育成する機関が必要」と訴える。

大学志向

「公設民営」方式を想定 県看護連盟が誘致活動



看護大学の候補地として名前の挙がった河北中。倉吉産業高校跡地との等価交換により、来年4月から空き校舎となる＝倉吉市上井

年制の三つの看護専門学校、5年一貫の看護師養成コースを持つ米子北高、2年で准看護師の受験資格が得られる専修学校と複数の養成機関がある。

正看護師の国家試験の受験資格は専門学校、大学のどちらを卒業しても得られるが、

「ミリタナ」 看護師不足 鳥取県の第7次看護職員需給見通しによると、県内の医療機関は本年度8521人の看護師を必要としているのにに対し、就業者は8199人と推計され、3222人の不足が生じている。県は看護師不足の解消に向け、鳥取大学医学部保健看護学専攻に「地域枠」や「養成枠」を設けて定員を20人増やしたほか、倉吉総合看護専門学校も新たな養成機関の設置に向け検討を進めている。

られ、平井伸治知事は「看護士の質の向上も図る。関係者によく話し合いをしたい」と答弁。充実を考えないといけ

藤井秀樹健康医療局長は「短期中期的には鳥大(看護学専攻)の充実が即効的現実的」との設置を平井知事に要し、大学の新設は教授や学生の確保などクリアすべき課題が多いとの見方を示した。

■前向きに

一方、候補に挙がった河北中は、存廃議論が進む県立保育専門学校(保専、倉吉市南照和町)の移転候補先の一つ。倉吉児童相談所(同市宮川町)を同所に移転させる構想もあり、県は「まずは保専の検討を急ぎたい」と、大学の設置の動きとは一線を画す。

同連盟は今年10日、倉吉市の石田耕太郎市長に実現に向けた要望書を提出。石田市長は「看護師不足の解消や